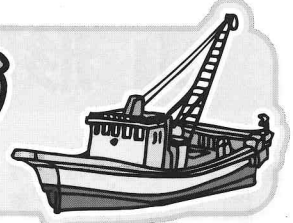




何でも魚^{うお}ツチング

No.75 『がんばってます～番外編～』



はじめまして、4月1日から水産試験場に配属となりました工藤 充弘です。まだまだ分から

ないことが多くご迷惑をお掛けしますが、どうぞよろしくお願ひします。私はカレイ類の研究を担当していて、試験場では魚を測定する機会が多いのですが、今回はちょっと変わったカレイに出会ったのでご紹介したいと思います。

下の写真は今年6月に測定したヤナギムシガレイです。写真右側の個体は眼がある面(有眼側)が褐色、眼の無い面(無眼側)が白い正常魚で、左側の写真は両面ともに褐色です。これまで多くのヤナギムシガレイを測定してきた水試の先輩に聞いたところ、ヤナギムシガレイでこのような両面が褐色の個体は大変珍しいそうです。発見した時は仲の良い2匹がくっついてしまったのかと思いました。

早速調べてみたところ、体が平たく両眼が体のどちらか一方に存在する異体類において、このように両側が褐色になることを「両面有色魚」といいます。両面有色魚は同じ

異体類のヒラメでは人工種苗に多く発生しますが、天然での確認は珍しいとのこと。

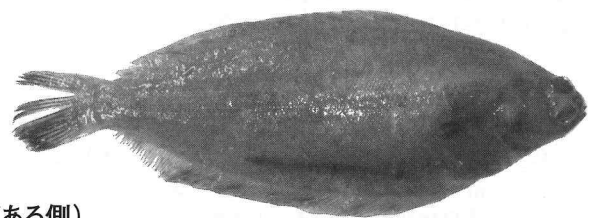
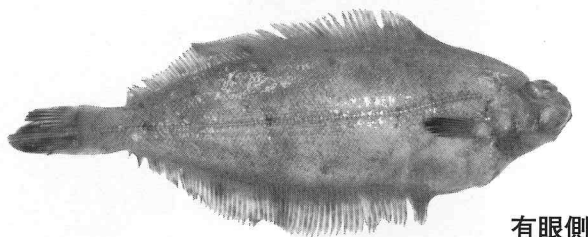
では、このような両面有色魚はなぜ発生するのでしょうか？その答えは異体類の発生過程にありそうです。生まれたばかりの異体類の仔魚は、他の魚と同じ左右対称の体で水中を浮遊しています。そして、海底で生活する時期になると、片方の眼が動き始め、頭上を越えて反対の体側面に移動します。その時に、色素細胞の増殖および収縮が起こり、有眼側は褐色に、無眼側は白色になります。この形態の変化を「変態」と呼び、この過程を経て体は平たく、片側に眼が偏った成魚となります。今回のヤナギムシガレイは何らかの原因(ストレス?)でこの変態が正常に進まなかったものと考えられます。それにしても、このカレイは海底でどのような格好で泳いでいたのか気になります・・・。

試験場で働き始めて4ヶ月程経ちますが、日々の仕事をする中でも今回のような小さな発見が多く、楽しく仕事をさせてもらっています。小さな発見からも多くを学び、広い視野を持つて仕事に取り組んでいこうと思います。

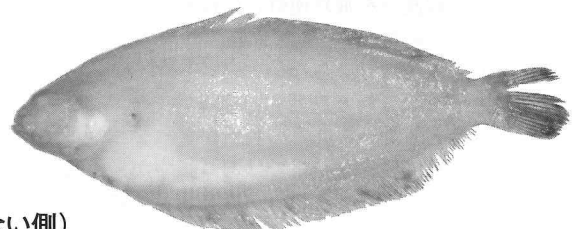
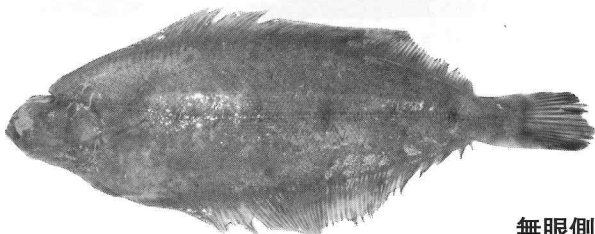
水産試験場海洋資源部研究員 工藤 充弘

体色異常個体

正常魚



有眼側(眼がある側)



無眼側(眼がない側)

● 年金のお支払いは漁協へ